



# 米国株 MARKET PICK UP



## 先週の米国株式市場—6月利上げが意識される中高安まちまち—

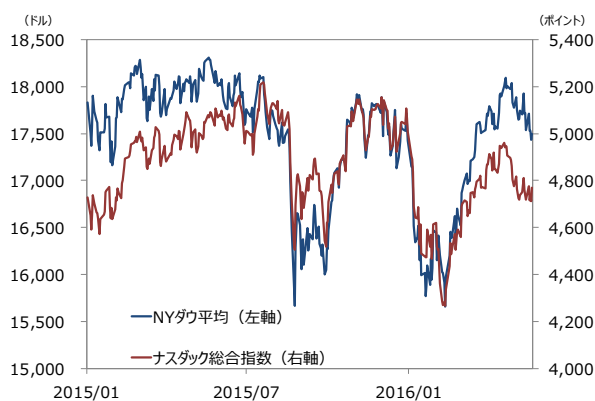
	前週終値	5月16日	5月17日	5月18日	5月19日	5月20日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,535.32	17,710.71	17,529.98	17,526.62	17,435.40	17,500.94	-34.38	-0.20%
騰落幅		+175.39	-180.73	-3.36	-91.22	+65.54		
S&P500	2,046.61	2,066.66	2,047.21	2,047.63	2,040.04	2,052.32	+5.71	+0.28%
騰落幅		+20.05	-19.45	+0.42	-7.59	+12.28		
ナスダック総合指数	4,717.68	4,775.46	4,715.73	4,739.12	4,712.53	4,769.56	+51.88	+1.10%
騰落幅		57.78	-59.73	+23.39	-26.59	+57.02		

### ＜先週の概況＞

先週の米国株式市場でダウ平均は34ドル安と4週連続で下落した一方で、S&P500とナスダック総合指数は上昇と高安まちまちでした。中でもハイテク株比率の高いナスダック総合指数は1.1%超上昇し5週ぶりに反発しました。

原油価格上昇を受けて高く始まったダウ平均ですが、FRB高官の早期利上げに対する積極的な発言や、タカ派的だったFOMC議事要旨を受けて17日から19日まで3日続落となりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



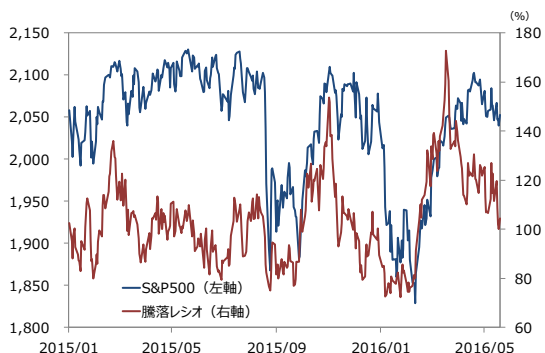
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.3	3.0	2.7%
S&P500	17.5	2.8	2.3%
ナスダック総合指数	17.7	3.5	1.3%

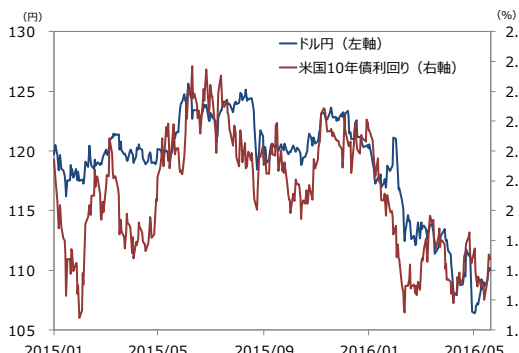
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年5月20日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

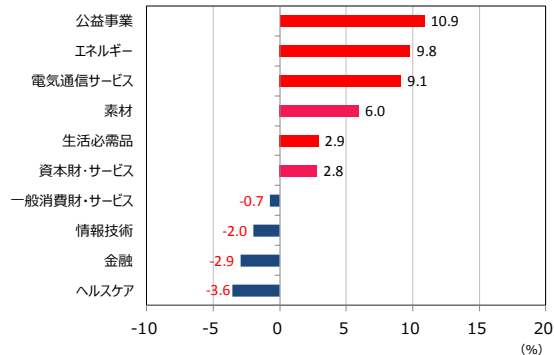
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

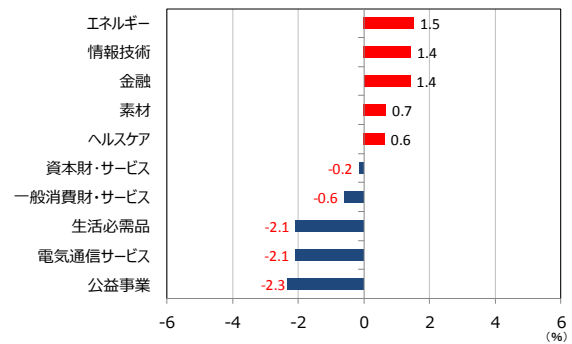
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (5/16-5/20)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
WMT	ウォルマート・ストアーズ	7.6
CSCO	シスコシステムズ	5.4
AAPL	アップル	5.2
DD	イー・アイ・デュポン・ノボ・ケムル	4.5
JPM	JPMorgan・チェース・アンド・カンパニー	3.8
MRK	メルク	2.3
PFE	ファイザー	1.7
UNH	ユニテッドヘルスグループ	1.5
XOM	エクソンモービル	1.2
V	ビザ	1.1

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (5/16-5/20)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
MCD	マクドナルド	-4.9
BA	ボーイング	-3.6
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-3.1
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-2.5
MMM	3M	-2.0
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	-1.5
NKE	ナイキ	-1.4
UTX	ユニテッド・テクノロジーズ	-1.2
HD	ホーム・デポ	-1.0
CVX	シェvron	-0.9

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

### <上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中上昇は11銘柄にとどまりました。決算が市場予想を上回ったウォルマート(WMT)が8%近い大幅高となりました。また、著名投資家のウォーレン・バフェット氏率いるバークシャー・ハサウェイ(BRKB)が株式を購入したことが明らかとなったアップル(AAPL)も5%超上昇しています。

### <下落>

マクドナルド(MCD)、コカ・コーラ(KO)、プロクター・アンド・ギャンブル(PG)、ナイキ(NKE)など消費関連の一角が軟調でした。

## 先週発表された主な経済指標

### 連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨

18日に公表された4月開催の連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨は、市場を驚かせるタカ派的な内容でした。議事要旨では参加者の多くが、条件が整えば6月に追加利上げを実施することが適切となるとの見解を共有していたことが明らかとなりました。追加利上げを実施するための条件として、4-6月期の景気持ち直し、労働市場の回復継続、2%インフレ実現に向けた前進が挙げられています。

6月の利上げが確実視されるほどではありませんが、議事要旨の公表を受けこれまで市場が見込んでいたよりもFRBがタカ派的であることが明らかとなり、中長期金利の上昇や円安・ドル高が進みました。

## 今後発表される主な経済指標

### イエレンFRB議長発言

27日にイエレンFRB議長がハーバード大学で講演を行います。今後の金融政策への言及があるかどうかは不明ですが、FOMC議事要旨で6月利上げの可能性が高まった後だけに発言内容に注目が集まります。

また、今週はイエレン議長以外にも23日にセントルイス連銀のブロード総裁、フィラデルフィア連銀のハーカー総裁、25日にミネアポリス連銀のカシュカリ総裁、ダラス連銀のカプラン総裁など多くのFRB関係者の発言が予定されています。

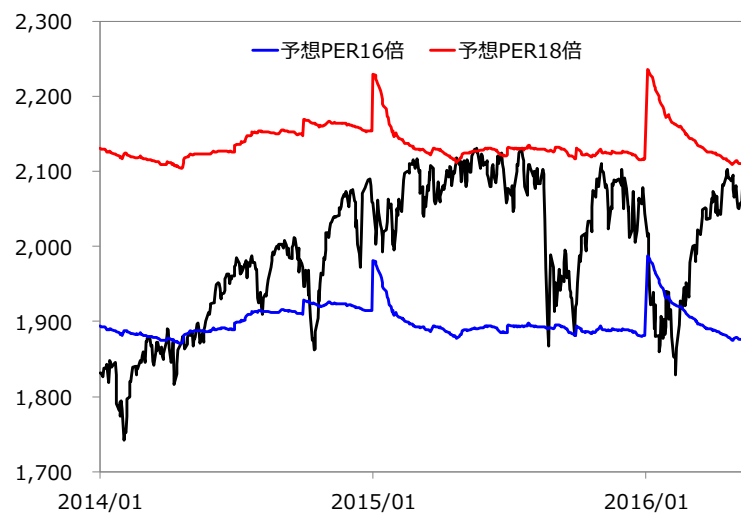
マーケットビュー—FRB 高官の発言に注目する週—

先週のマーケットビューでは、S&P500 の予想 PER が依然としてやや割高圏にあることから下方向に注意と記しました。結果、ダウ平均は小幅安だった一方ナスダック総合指数は上昇とまちまちでした。

FOMC 議事要旨は「利上げは早くても秋以降だろう」というマーケットのコンセンサスを否定して6月利上げの可能性を残す驚きのタカ派的な内容でした。ただ、議事要旨では「景気持ち直し、労働市場の回復、インフレ加速といった条件が揃えば」との前提が置かれていることから、必ずしも6月利上げが確実な情勢ではありません。

そして今週は、多くのFRB 関係者の発言が予定されています。マーケットが急速に早期利上げの可能性を織り込みにかかる中、FRB 高官たちの発言に市場が一喜一憂するといった展開が予想されます。

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergデータよりマネックス証券作成

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

**ご留意いただきたい事項**

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号

加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会